

令和4年度 第2回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和4年12月16日（金） 午後7時～午後8時36分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 山添 智子 辻 聡 富山 由美子
地村 千里 松本 佐知子 山崎 喜代美 中村 ひろ子
山中 ルミ

【事務局】 田村次長 三日月課長 岡崎参事 香取館長 篠原館長
片岡館長 今村館長 井口館長

【傍聴者】 0名

4. 次 第：(1) 会長あいさつ
(2) 地村委員のお話（経験談より）
(3) 図書館評価について
(4) 市民アンケートの実施について
(5) その他（蔵書点検）
(6) 副会長あいさつ

5. 内 容

(1) 会長あいさつ

蔵書点検の見学会が開催され、その感想を述べたいと思います。蔵書点検は知っていましたが、1週間閉館して実際何をしているのか分からなかったので、気になっていました。今回見学をさせていただいて、この作業は大変で、利用者の方にも分かっただけでなく必要ではないかと思いました。館長の説明で1週間かかる重要な作業であると理解しました。バーコードの位置などいろいろ工夫されていますので、職員や協議会委員だけでなく利用者の方にも共有してもらうのが良いと感じます。

先日、立命館大学草津キャンパスの図書館に行きました。大学図書館は久しぶりだったので、普通の図書館とは違う雰囲気がありました。

本日は地村委員のアメリカ大学図書館のお話もありますので、非常に期待をしております。本日もよろしく申し上げます。

(2) 地村委員のお話（経験談から）

このような機会を与えてくださってありがとうございます。何か皆さんのお役に立てばと思い、今回お話しさせていただきます。

アメリカへ行った理由は、観光でアメリカを訪れた際、デンバーの公立図書館に行き、カウンターで色々な人種や年齢の図書館の職員が楽しそうに仕事をしているのを見て、私もこのような職場で働いてみたいと思ったことがきっかけでした。

なぜ図書館なのかというと、やはり本が好き、図書館が好きだからでした。

通信教育で司書資格を取り、1年間図書館で勤務しましたが、自分が図書館で働きたいと思ったきっかけはデンバーの図書館だったので、いろんな専門職で応募できるインターンシップ制度を利用してアメリカの図書館で勤務することとなりました。

～写真や地図で、勤務された図書館や地域の特徴などを紹介いただく～

アメリカの図書館の特徴としては、大人のセクションにはレファレンスライブラリアンがいて、専門職という大黒柱として利用者の質問に答え、児童のセクションには児童専門の職員がいて行事などの児童サービスを行っていた。

勤務していた図書館の館長は、すべての住民が利用できるように考えておられ、事業をするにあたっては、司書一人が最後まで責任をもって事業を進めていました。

また、多くのボランティアがおられ、ボランティアコーディネーターという方が調整をしています。

アメリカで学んだことは、司書の仕事は知識と人をつなげる、情報と人をつなげていくことであると思います。

図書館勤務略歴

1. ペンシルバニア州チェスター郡公共図書館
2. ミシガン州バーミングハム公共図書館（ボールドウィン公共図書館）
3. イリノイ州ドミニカン大学図書館（レベッカ・クラウン図書館）
4. イリノイ州シカゴ美術館図書館（ライアソン・バーンハム図書館）
5. アラスカ大学フェアバンクス校地球物理研究所・国際北極圏研究所図書館
6. ニューヨーク州コロンビア大学東アジア図書館（CV・スター図書館）

【質疑・意見】

委員：「ニューヨーク公共図書館」という映画を観たが、アメリカと日本の図書館では何もかも大きく違うことに驚いた。日本に帰ってきてどう思われますか。

地村委員：ニューヨーク公共図書館はアメリカでも別格。あそこは公共図書館というよりも専門図書館という感じでとらえられています。

委員：では、最初に勤められた公共図書館はどのような雰囲気でしたか。

地村委員：そこは日本の公共図書館と似たような感じで、ニューヨークの図書館はお金の額も違うし、たぶん寄贈や寄付もすごいのだと思います。

委員：アメリカに行かれましたが、英語は堪能でしたか？

地村委員：いいえ。インターンシップの時は、英語漬けの生活でした。日本にいるときは中高生に英語を教えていました。もっと英語を勉強したい思いはありました。

委員：ご経験から、甲賀市の図書館をこうすればもっと良くなるのではないかということがあれば教えてください。

地村委員：働き方が日本とは違います。日本は何人かのチームで働くが、アメリカは一人ひとりが専門性と責任をもって働く。

システムが違うので、こうしたら良くなるとはなかなか言えません。

委員：なぜ、アメリカへ行かれたのですか。

地村委員：インターンシップ制度があったからで、また、アメリカやヨーロッパの歴史に興味もありました。図書館もアメリカは進んでおり、英語の本は、世界の中の出版物の30～40%あるので、本が多いのでしっかりとカタログしておかないと見つけれないことがあります。英語はいろいろな方が利用されるのでしっかりとした基準を作らないといけません。

事務局：アメリカの方が、図書館をどのように利用されているか教えてください。

地村委員：この頃は図書館に借りに行く方も増えましたが、日本では本は買うものという感じです。アメリカではまず図書館を利用するという考え方があり、例えば釣竿を貸すなど、ただ本を貸すだけでなく、トータルに遊ぶことを教えるということで、住民が何を希望されているかをよく調べていると思います。その時の図書館長は、全ての住民が図書館を利用してもらうように考えておられ、そのための努力をされると言っておられました。

もう一つ、各図書館ではアーカイブがすごく大事で、「調べに行くところが図書館」であったりする。図書館のアーカイブで昔の書類を見つけたり、拾ったものを調べるなどの目的でも気軽に図書館に来られます。

(3) 図書館評価について **資料1**

〔甲賀市図書館サービスの点検・評価（令和元年度～令和3年度）〕に基づき事務局から説明〕

【質疑・意見】

会長：(2) ③ 3の必要な修繕の実施がBの評価ですが、修繕回数が多いのでは。老朽化に伴うものですか。これで必要な修理ができていますか。

事務局：老朽化が多いです。どの図書館でも修理維持の面での課題が出ています。この表のとおり回数を書いています。同じ箇所を繰り返し修繕する必要がある場合は、抜本的な工事ができるように予算要求するようにしています。

会長：回数が多いことはいいことではなく、集中して予算を確保して修理をしないとどんどん回数が増えていくと思います。

ほかにも修理箇所が増えると、利用者から不満の声が出てくると思うので、予算を取るなり計画を立てるなりして修繕を進めてください。

事務局：了解しました。

(4) 市民アンケート調査の実施について **資料2**

〔甲賀市図書館に関する市民アンケート調査の実施に基づき事務局から説明〕

13歳以上の1,000人を対象 回収数 331（無効4）

うち 郵送 86.1%、WEB 12.6% 利用あり 40.6%、利用なし 59.3%

男 40%：女 68%

【質疑・意見】

事務局：アンケート結果については、次回の第3回図書館協議会で報告させていただきます。

(5) その他

〔蔵書点検の見学実施について（令和4年11月20日）に基づき事務局から説明〕

【質疑・意見】

会 長：バーコードの件も方向などを決めて貼っているので、図書館利用されている方は興味深いこと。図書館を知ってもらい、協力してもらうにはいい機会であるので、うまく広報し情報共有してください。

委 員：蔵書点検の事務軽減のためチップを付けるなどの検討はされていますか？

事務局：以前に業者から見積もりを取りましたが費用が高額であり、蔵書も70万冊以上ありますので、現状はバーコードシールで対応しています。大学図書館ではチップを入れておられるところもありますが、現状公共図書館で採用するにはなかなか非現実的だと考えます。

委 員：県立も含めて滋賀県の図書館では、チップを採用しているところはないのですか。また、勝手に持って出ると警告音が鳴るゲートは設置されていますか。

事務局：把握しておりません。チップとバーコードシールどちらがいいとは言えません。市民の財産を守り、安全に管理する点からみるとチップはあってもいいと思いますが、見張られていると思われる方もおられますし、誤作動の問題もあります。気軽に図書館を利用したい方もおられますので、甲賀市では、開かれた使いやすい図書館という考え方で良いのかと思います。

委 員：アメリカではどうでしょうか？

地村委員：アメリカでは、チップが入っていますし、入口に専門のガードマンがいます。

(6) 閉会のあいさつ

会 長：それでは、協議会はこれで終了とします。最後に副会長あいさつをお願いします。

副会長：今日も有意義な時間ありがとうございました。

このような会議の「市民の思い」や「市の思い」が市民に伝われば良いなあと思っています。私も含めてコロナで図書館が遠ざかってきていますので、地村委員のお話であった全ての市民が全員図書館に来てもらいたいという思いが広がり、行きやすくくつろげる図書館になれば良いと思っています。図書館の職員の方の意見も前向きであり、感謝しております。本日はありがとうございました。

20：36 終了